

I. 目指す学校像

大正 9 年に殖産興業を図る目的で創立され、その後地域に根差した工業高校として支えられてきた 99 年の歴史を持つ伝統ある工業高校である。校訓に「自治」を掲げ、「自らの人生を自ら治める」ことができる人材育成を目指す。そのために「実力主義、努力主義、反省主義」の 3 つを上げている。自他ともに認める実力をつけ、そのための努力を惜しまず、次のステップに進むための反省を行い、それを生かしていける生徒の育成を目指す。また、工業高校である本校は職業人を育てることを目的としており、社会で通用する規範意識や基礎学力を身に付けさせることを目標にする。

- (1) 自他共に大切にし、人権尊重の精神に基づいて教育活動を推進し、いじめや体罰のない学校
- (2) 職業人として基本的な姿勢である規範意識を養いそれを実践できる生徒を育成する学校
- (3) 社会で役立つ学力の基礎をしっかりと定着できる学校
- (4) 職業人として任された仕事を、責任をもって遂行できる気力と体力を養うことができる学校
- (5) 保護者や地域から信頼され、ともに一体となって生徒のための教育が推進できる学校

II. 中期的目標と方策

1. 目標 「自己有用感を高め一歩早い自立を目指す」

「あきらめない」精神を育て、粘り強い生徒を育成する。

100 周年を迎えた伝統ある工業高校として地域に愛される学校づくりをさらに進める。

社会人としての自立心を養うためにキャリア教育を充実させ将来を考えさせると共に、基礎学力の定着と職業人としての社会規範や知識を養う指導する。

広報活動をさらに充実させ学校の理解促進と地域からの信頼と理解を深める。

2. 方策

1) 学習指導：あきらめさせない指導の徹底と社会人として通用する基礎学力の定着

- ① あきらめない、あきらめさせない指導の中で学習習慣の定着を図る。
- ② 日々の授業を大切にし、授業に取り組む姿勢を定着させ基礎学力の定着を図る。
- ③ ICT の活用などにより「わかる」「わかりやすい」を実感できる授業の工夫に取り組む。
- ④ アクティブ・ラーニングを実施し主体的・対話的で深い学びにつなげ学力の定着を図る。
- ⑤ 補習補講体制を充実させ、日頃の指導や長期休業日中の体制づくりを行う。
- ⑥ 資格取得の指導や検定指導の充実を進める。
- ⑦ 特に「学び直し」が必要な生徒に対しては「寺子屋事業」の活用や外部支援なども活用し個に応じた学習支援を行う。

2) 生活指導：規範意識の醸成と生徒の主体性の伸長を目指す

- ① 規範意識の醸成を図るため全職員での生徒への声掛けに努める。
- ② 安定した学校生活を送るために、家庭・保護者とも連携を取り基本的な生活習慣の定着を図る。
- ③ スクールカウンセラー、自立支援チームを組織的に活用し、生徒や教員が相談しやすい環境づくりを行う。
- ④ いじめの未然防止の観点からも心の教育を充実させ、組織的な取組を行う。また教員間の情報共有を十分に図れるような体制を作る。
- ⑤ 問題行動の未然防止に努める。特にいじめにつながりかねない SNS 等の使い方については指導を徹底させ、生徒間のトラブル等の未然防止を図る。
- ⑥ 安全教育を推進し、セーフティ教室などを充実させる。

3) 進路指導：3年間を見通したキャリア教育の充実を図り、職業人を育てる

- ① キャリア教育の視点で3年間を見通した進路指導を行い、キャリア教育の充実を図る。
- ② 外部との連携による進路講話等を充実させ、健全な勤労観や職業観を育成する。
- ③ 勤労観や職業観を育成するために2年生全員でのインターンシップや3年生でのデュアルシステムを充実させる。
- ④ 就職試験に対応できる力や技能を身につけさせ、進路決定率100%を実現する。

4) 特別活動：生徒の帰属意識や自己有用感を育てる

- ① 体育祭や文化祭などの学校行事を活性化させ生徒の帰属意識や自己有用感を高める。
- ② 生徒会活動や部活動を活性化させ帰属意識や自己肯定感を高める指導を進める。
- ③ ボランティア活動を推進し、地域行事や防災活動に積極的に参加させ、コミュニケーション力や自己有用感を育成する。

5) 広報活動・募集対策：本校の理解促進と地域に根差した学校理解を進める

- ① 本校の教育活動や生徒の姿を広く中学生や保護者、中学校関係者、地域等に紹介し理解していただくためにあらゆる機会を使い積極的に広報・募集活動を行う。
- ② 学校説明会や見学会、体験入学などを積極的に行い、今まで以上に充実を図る。
- ③ 地域に開かれた学校を目指し、長期休業日中の小中学生向けの講座（わくわくドキドキ夏休みワークスタジオ）や公開講座を実施すると共に、施設開放を行っていく。
- ④ ホームページ等を充実させ、日々の学校の様子を発信するとともに本校の理解促進に努める。
- ⑤ 全職員での広報活動を図り、学校理解と募集対策に努める。

6) 健康・安全・防災：心身ともに健全な生徒を育てる

- ① 地域や関係機関と連携を図り、計画的に防災訓練等を実施し「自助・公助・共助」の精神を育成するとともに、防災意識の向上とボランティア精神の育成を図る。
- ② 生徒の健康促進を図るため、健康診断の確実な受診と健康への意識向上のために食育教育や健康推進教育の充実を図る。
- ③ スクールカウンセラーや関係機関と連携を図り、いじめの未然防止や心の教育のために全力で取り組む。
- ④ スポーツ活動や体育を推進し体力向上を進め、スポーツを楽しめる体作りと共にけが防止や病気防止につながるように指導する。
- ⑤ 外部機関等と連携し交通安全教室や薬物禁止講話などを実施し、安全教育に努める。

7) 学校経営・組織体制

- ① 組織的な取組
 - ・ 企画調整会議の機能を高め、学校経営の理解浸透と各分掌、学年、工業科、経営企画室の意見聴取の双方向性を高める。また、企画調整会議での決定や懸案事項の情報共有化を全職員で図り、教職員の経営参画意識を高める。
 - ・ 教科指導の充実を図るために教科会の活性化を図る。
- ② 教職員のコンプライアンスをより向上させるために校内研修等で周知徹底を図る。
 - ・ 校内研修等を実施しサービスについて理解を進めると共にサービスの厳正を徹底する。
 - ・ 機会ある毎に個人情報の管理の徹底を促すと共に相互の注意喚起にも努める。
- ③ 若手教員の育成のために組織的なOJTを行うと共に、校内研修の活性化を図り教職員の資質の向上を図る。
- ④ 働き方改革プランを推進させ、仕事の効率化を行うと共に、ライフワークバランスの実現を図り公私ともにバランスの取れた豊かな生活を目指す。
- ⑤ 経営企画室との連携を深め、円滑な学校運営ができるように努める。

III. 今年度の取組目標と方策

1. 目標と方策 「一歩早い自立を目指して “Think & Challenge”」

目 標	方 策
学習指導 (あきらめさせない指導の徹底) ① 学習習慣の定着と充実 ② 基礎学力の定着と向上 ③ 補習補講体制の充実 ④ 長期休業中の補習補講 ⑤ 資格取得指導の充実 ⑥ 読書活動等の充実 ⑦ レポート指導 ⑧ オンライン授業の確立	<ul style="list-style-type: none"> ➤ スモールステップの授業の実践により達成感と、繰り返しによる学力の定着を図る ➤ アクティブ・ラーニング（AL）を実施し主体的・対話的な学びにつなげ学力の定着を図る ➤ 復習、振返り、まとめを充実させ確実な定着を図る ➤ 校内寺子屋事業を活用し組織的に基礎学力の定着を図る ➤ 成績の伸び悩んでいる生徒への補習の徹底を図る ➤ 学期ごとの指導を徹底し基礎学力の定着を図る ➤ 全職員で長期休業中に補習・補講を行う（年2回以上） ➤ 組織的な資格取得に向けた体制を作る ➤ 調べ学習や主体的学習を積極的に行い、図書館の積極的な活用を促し探究意欲と態度を養う。 ➤ 書けない生徒に対するレポート指導の充実 ➤ 期限を守ってレポート等の提出ができるよう指導の徹底 ➤ 緊急時に対応できるようオンライン授業等を全教職員が活用できるようにする
生活指導 (生徒の主体性を伸ばす指導) ① 規範意識の醸成 ② 教育相談の充実 いじめの未然防止 ③ 安全教育の充実 ④ SNS等社会規範の教育	(社会人として生きていくための指導) <ul style="list-style-type: none"> ➤ あいさつの習慣をつけさせるとともに、他人に対する態度等を養うように指導する。 ➤ SC、YSW等の活用により相談しやすい環境づくりを図る ➤ SCによる全員面接の実施 ➤ 集会やHR等でのこまめな呼びかけの徹底 ➤ 外部機関とも連携し、セーフティ教室や交通安全指導を行っていく。 ➤ いじめに繋がりにかぬないSNS等の使い方の指導やインターネット社会の便利さと怖さを指導していく。
進路指導 (将来を考えさせる指導) ① 進路決定率100%の実現 ② 全学年を通した体系的なキャリア教育の充実 ③ キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 就職試験に対応できる力（SPI検査、作文、面接等）や技能（資格取得等）を身に付けさせる ➤ 面接指導等、組織的な指導の充実を図る ➤ 1年生から体系的な進路指導体制を作る ➤ 学年進行に応じた関係機関と連携した進路ガイダンスの実施 ➤ 学年、工業科と連携したインターンシップ（2学年全員）とデュアルシステム（3年希望者）を充実させ、進路活動につなげていく。
特別活動・部活動 等 (学校生活を充実させるために) ① 学校行事の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 生徒の満足度を上げるため学校行事の内容をより充実させ

<ul style="list-style-type: none"> ② 部活動の活性化 ③ 生徒会活動の充実 ④ 地域との連携の充実 	<p>る</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 部活動加入率を上げ帰属意識を高める ➤ 生徒のやる気を引き出し、主体的な活動を導く ➤ 学校行事や挨拶運動で中心となれるように指導する ➤ 地域のイベント等に積極的に参加する。(富士見祭り、地域防災訓練等) ➤ 公開講座や小中学生を対象とした体験的学習を積極的に行い、地域との連携を充実させる。
<p>広報活動・募集対策 (ものづくりの楽しさを伝える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校説明会等の充実 ② 学校理解を推進するためHP等の充実 ③ 地域等への貢献 ④ 中学校訪問の充実 	<p>「さらなる学校の理解推進を図る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 校内での学校説明会等 5 回以上、体験入学 2 回の実施 ➤ 年間での更新回数 100 回以上 ➤ HP や SNS での学校情報の更新頻度を上げる ➤ 近隣小中学校との連携事業の充実 地域祭りや防災訓練等への参加 ➤ 板橋区、北区を中心に全職員での中学校訪問。特に板橋区、北区は 2 回以上 他を含め延べ 150 校以上
<p>学校経営・組織体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 組織力の向上と強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画調整会議の充実 ・ 教科会の充実 ② コンプライアンスの向上 ③ 校内研修の充実と OJT の推進 ④ ライフワークバランスの推進 ⑤ オリンピック・パラリンピック教育の推進 ⑥ 経営企画室との連携強化 	<p>(『チーム北豊島』として)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 各分掌、学年、企画室等との双方向の意見集約を図り学校経営への参画意識を高める。 ➤ 共有フォルダ等の活用により情報の共有化を図る ➤ 月 1 回の教科会を実施し、学力分析や課題把握を行い、教材研究を進める。また教科としての補習補講計画を実施する。 ➤ サービスの厳正の徹底を図るために校内研修等を 2 回以上実施 ➤ 個人情報の管理を徹底するために校内ルールの徹底と職員室等の環境整備を行う ➤ 引き続き体罰及びサービス事故“0”の実現 ➤ 若手育成のために担当主任教諭とのペアでの OJT の実施 ➤ 定期的な校内研修の実施 ➤ 業務内容の見直しや仕事の効率化を図る ➤ 仕事の偏りを軽減するために組織的な取組を推進する ➤ 部活動指導員などの外部人材の登用 ➤ 外部人材による講演の実施 ➤ 外部との連携による国際理解教育を進めるための取組 ➤ 連絡・報告を確実にやり円滑な学校運営ができるよう努める
<p>健康・安全・防災 (生徒の安全推進のために)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 防災教育の充実 ② 生徒の健康推進教育の充実 ③ 心の健康教育の推進 ④ 安全・安心な学習環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 避難訓練の適正な実施と地域と連携した防災訓練の実施 ➤ 防災支援隊を活用した組織的な防災訓練等の実施 ➤ 生活習慣の確立、食育の推進を図るための講演等の実施 ➤ 教育相談体制の充実 ➤ SC による全員面接の実施 ➤ 危険個所の早期発見と修繕を徹底する ➤ 学習環境の整備の推進

2. 重点目標と方策

A) 全職員で取り組むこと

- 1 わかりやすい授業への取組と補習補講の充実
 - ・ 長期休業日中の補習補講の実施（年 2 回以上）
 - ・ 相互の授業参観の実施（年 2 回以上の参観）
 - ・ ICT等の活用、ALの取組み、オンライン授業の取組み
- 2 全職員での広報活動
 - ・ 地域中心（板橋区、北区を中心とした）の中学校訪問の実施
 - ・ 上記を含めた中学校訪問（3 回以上）
- 3 規範意識醸成のための全職員での声掛け（生徒の主体的な行動を促す）

B) 各分掌事の重点目標

①	1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中途転退学者の減少 ・ 学習習慣、生活習慣の定着 ・ 保護者、家庭との連携強化 	在籍数の 1 割以内 遅刻欠席の減少と補習補講の充実 丁寧な連絡と記録の徹底
②	2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中途転退学者の減少 ・ インターンシップの充実 ・ 保護者、家庭との連携強化 	在籍数の 3%以内 全員参加 丁寧な連絡と記録の徹底
③	3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中途転退学者をなくす ・ 進路決定率 100%の実現 ・ 保護者、家庭との連携強化 	全員の卒業 100%の進路実現 丁寧な連絡と記録の徹底
④	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間での校務スケジュール管理 ・ 授業時数の確保に向けて ・ 各分掌との連携強化 ・ 新教育課程に向けての準備 	計画的な行事管理 臨時時間割など早めの周知 新教育課程に向けての準備
⑤	生活指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規範意識の醸成 あいさつ指導等 ・ 特別指導等の未然防止指導の徹底 ・ 授業規範の徹底 	全職員での声掛けの徹底 特別指導件数：前年度件数以内
⑥	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の進路決定 100%の実現 ・ 3 学年を通しての進路指導の充実 	進路決定 100% 各学年との連携による進路指導
⑦	総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動の充実と組織的な取組 ・ 中学校教員向けの広報活動 ・ 中学校訪問の充実 ・ HP や SNS の充実 	学校説明会等 6 回 体験入学 2 回 学校説明会 2 回 全職員で中学校訪問 延べ 150 校以上 HP、Twitter 更新 100 回以上 月間 8 回以上の学校情報の更新
⑧	工業科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得等に向けた指導の充実 ・ レポート指導の充実と徹底 ・ 評価の透明性を図る 	前年度と同程度の合格者 書けない生徒への指導の充実 提出を守ることの指導の徹底 確実なレポート、作品等の返却と評価の透明化
⑨	学校としての取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携事業の充実 	地域祭り等への協力（総務部との連携） 小中学校との連携